

S-NET NEWSLETTER

※「S-NET」は高等教育コンソーシアム信州の通称です。「S」はShinshu・Self-Study・Share・Scale・Socialを表し、「NET」は情報通信・教職員・学生間のネットワークを表します。

2012.2 vol.7

- 遠隔授業教員インタビュー
- 遠隔授業学生インタビュー
- 「地震ボランティア報告会／第26回K³茶論」開催報告
- 後期「遠隔授業」受講状況について
- 賛助会員募集のお知らせ
- 活動報告
- 編集後記

高等教育コンソーシアム信州事務局
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 信州大学学務課内
電話：0263-37-2427 FAX：0263-36-3044
URL：<http://www.c-snet.jp/> MAIL：office@c-snet.jp

遠隔授業教員インタビュー

平成22年度、23年度の2年にわたり、遠隔授業で『国際看護学』を担当された、長野県看護大学の宮越幸代准教授にお話を伺いました。

Q. 2年間の遠隔授業で、やってよかったと思う点はありますか？

A. 本学（長野県看護大学）は単科大学なので、他大学の学生が勉強している雰囲気やその内容などがなかなか分かりませんでした。しかし、遠隔授業をやってみる中で、ちょっとした意見交換でも、「1年生でもこんなことを考えるんだ」「他大学ではこんなことを考えているんだ」というところに目が向くようになり、その点がすごく大きな収穫だったと思います。

昨年度（平成22年度）の『国際看護学』で一度、信州大学からサプライズで授業をしたがありました。いつも本学の講義室から配信している授業なのに、私が信州大学の講義室から登場したので「先生が行けて自分達が行けないのが悔しい」「自分達も行ってみたい」などの意見が本学の学生からあって、他大学への関心やアクションにつながるような気持ちを喚起できたのが嬉しかったですね。

あと、遠隔授業で知り合った学生同士が、遠隔授業ではない機会に偶然に出会ったというような、出会いをつなぐことができたことはよかったです。

Q. 難しいと思った点は？

A. 遠隔授業は参加者によって成り立つと思います。また、『国際看護学』はどちらかというと正解を見つけ出すことが難しい学問ですので、自分達で歩み出して意見を交わしたり広がりを持たせたりするには、他大学との交流を持つ遠隔授業はとてもいいと思っています。だから医学部の学生がいたり、経済学の分野からはこうだとか、他学部からもどんどん参加して欲しいと思っています。

ただ、遠隔授業の時間に他大学の学生達の必修科目が入っていると、授業を取りたくても取れないで、時間割のすり合わせというのが本当に大事で、しかし一番難しい点だと思います。大学間ですり合わせをしていただくとか、あとはシラバスに魅力的な内容を書いて学生を引き付けるとか、履修してみたいという動機を起こさせるような働きかけもしていきたいと思っています。

もう一つは、高学年生が考えるレベルの内容を、遠隔授業の例えは1年生が学ぶことについて、遠隔受講生に合わせるか、でもそれは本学の高学年生に対してはどうなのかと



長野県看護大学
宮越 幸代准教授
「国際看護学」(H22.23年度)担当

いう、レディネス (readiness) をどこに合わせるかという点に関しては、新たな課題として検討していくかなければならないと思っています。

Q. 遠隔授業をもっとこうした方がいいなという点はありますか？

A. 『国際看護学』は前期のみ開講であるため、遠隔授業を実施する期間に半年のインターバルが空いてしまうので、自分が受講したり参加したり、ある程度遠隔講義システムに慣れる機会を作る意味でも「できれば1年間遠隔授業があつてもいいかな」と思っています。

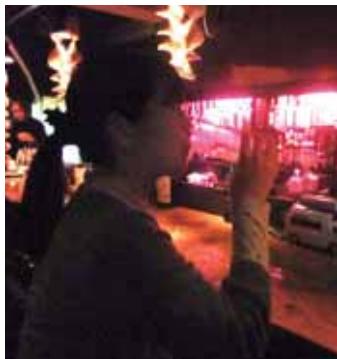
また、eChes* (E-learning for the Consortium of Higher Education in Shinshu : イーチェス) は、今は資料配布や課題提出に活用していますが、もう少し余裕ができたら勉強して他の授業の工夫とか授業研究とか、学問領域を越えて活用できるようになるといいなと思っています。

Q. 来年度も遠隔授業『国際看護学』をご担当いただいく予定です。学生へひと言お願いします。

A. 今年度（平成23年度）は、バヌアツ駐在のJICAシニアボランティアに、現地から遠隔授業をしていただき、学生には非常に好評だったようです。来年度もJICAの専門家にいざれかの国から講義していただくようすでにコンタクトを取っていますので、楽しみにしていてください。

「国際看護学」で教育される内容は、厳密に定められていくわけではないので、各大学の授業担当者によって扱う内容も異なると考えます。各教員のバックグラウンドを知り、シラバスで授業内容を見て履修を決めてください。ぜひ私の科目も履修していただいて、学生のうちに学べることはどんどん学んでいただきたいと思います。

遠隔授業学生インタビュー



佐久大学2年生
水沢 彩さん
「ドイツ語初級、中級」受講
(H22.23年度)

大学1年生のときから2年連続で遠隔授業を受講している水沢さん。そんな水沢さんに遠隔授業を受講してみた感想を伺いました。

Q. なぜ2年連続で遠隔授業を受けてみようと思ったのですか？

A. そもそも大学1年生のときに（遠隔授業を）受けてみようと思ったのは、興味のあるドイツ語があったからですね。シラバスを見て、「あっ、おもしろそう♪」と思って受けたのがきっかけです。1年生のときに初級を受けてドイツに短期語学研修に行ったこともあり、今年度は中級を受けてみようと思って履修しました。あとは担当の先生が松岡先生だったというのも、気軽に受けることができるの（受けてみたいと思った理由としては）大きかったです。

Q. 遠隔授業を受けてよかったですと思う点は？

A. 佐久大学は看護系の単科大学のため、教養科目が少ないのですが、遠隔授業では他の大学で開講されている教養科目を学ぶことができるので、その点で「遠隔授業があつてよかったです」と思いました。

Q. 逆に、遠隔授業を受けて「ここは悪かった」と思う点は？

A. やはり対面の授業とは違うので、臨場感に欠け自分の集中力を保てないところが「ちょっと」と思いました。授業が難しくなるにつれて徐々に集中するようになりましたが、最初のうちは慣れていなかったので…。今は慣れたので、対面の授業との差はあまりなく、あつと言う間に終わる感じです。

あとは、（佐久大学で受講している）学生が一人なので、廊下の音などが余計に気になってしまい、「他に受ける人がいるといいなあ」と思います。「他の会場の学生も見えるといいなあ」と思うこともありますが、画面が小さいので他の会場の様子が映ってもよくわからないし、そもそも「もし自分が映ったら嫌だなあ」と思いますね（笑）。

それと、「できれば卒業要件単位になればいいなあ」と思います。佐久大学では読替できる科目がないため、信州大学のドイツ語を受けても卒業要件単位になりません。そもそも授業料は変わらないわけですよね！私からすれば他の大学の授業を受けられるだけでプラスαになるので十分なのですが…。そういう理由もあって受ける学生が私しかいないのかもしれませんね（汗）。

Q. ところで遠隔授業ではeChes*がよく使われますが、使い勝手などはいかがですか？

A. 使いにくいです！大学1年生のときはパスワードを自分で覚えていたのですが、今年は自宅のパソコンに覚えさせてしまったのでつい忘れてしまって…。大学でプリントを印刷しようと思ったときに「不便だなあ」と感じたことはよくありました。でも、eChes自体は「近未来的だなあ」と思いました（笑）。

Q. そうですか…。では、eChes上で公開されている授業コンテンツは見えていますか？

A. 見てますよ！授業に出られなかった日や、（授業時間が自大学のものとズレているため）バスの時間に間に合うよう授業の終了間際で抜けることもあります。授業の続きが気になったときには見ています。ビデオだと早送りとかできるじゃないですか！気になったところにあわせてビデオを見るようにしています。ただ、（見たいところに）ポイントをあわせるのが難しいですね（苦笑）。

Q. 来年度も遠隔授業を受けてみたいと思いますか？

A. 興味深い科目があればぜひ受けてみたいと思います。しかし今年度の木曜5限は、実は3限、4限と授業がなかつたために受けにくかったです。曜日によってはもっと早い時間だと嬉しかったのですが…。なので、来年度遠隔授業を受けるかどうかは「科目」と「空き時間」次第ですね。慣れてしまえばシステムは全く関係ありません。むしろ最初のうちはCharlie's Angels的で楽しかったですし…（笑）。

Q. 最後にひと言！

A. 自分の大学にはない授業が聴けてとてもよかったですと思っています。遠隔授業で新しい世界が広がったって感じですね。来年度もぜひ受けたいです！（卒業要件単位にならないけど…泣）。

* eChes 高等教育コンソーシアム信州の学習管理システム（LMS : Learning Management System）のことであり、Web上から資料配布、意見交換、課題提示・提出などを行うことができる。

「地震ボランティア報告会／第26回K³茶論」開催報告

11月16日（水）に、「地震ボランティア報告会／第26回K³茶論」を開催しました。東日本大震災・長野県北部地震の被災地でボランティア活動を行った県内の大学生（長野大学、信州大学、松本大学、清泉女学院大学）が、活動内容やボランティアで感じたことなどを発表し、県内大学へ遠隔配信しました。県内大学の学生や教職員など約50名が参加しました。

～発表学生たちの声～

長野大学社会福祉学部3年

丸山 茜さん

長野大学は、長野県北部大震災で被害を受けた栄村に、4月からボランティア活動を開始しました。4～5人で班を作り、継続的に活動を行う体制をつくりていきました。

活動内容としては、始めたばかりの頃は倒壊した家屋の片づけ、がれき撤去、通信の配布を行いました。また夏からは、農業の手伝いや、仮設住宅にアサガオ・ヒマワリを植えたりと、住民の方から依頼を受け行なってきました。

私たちは作業を行うことだけを目的とはしていません。住民の方々との交流を大切にし、自分たちに何ができるのかを考えながら活動することを目標にしています。学生だからこそ出来ることを、住民の方々と共にやっていきたいと考えています。



松本大学人間健康学部2年

梶原 悠さん

11月26日に行われた地震ボランティア報告会に参加させていただきました。今回の報告会はネット通信によるテレビ会議というものでしたが、非常に有意義なものとなりました。

それは、この度の震災でTwitterなどのSNSが脚光を浴びましたが、今回のテレビ会議のような遠隔システムを使った会議は、離れていて多くの人たちと意見を交換することができ、モニターを通して話すことで広がりのある会議となりました。また、このシステムは遠隔地で可能なため多くの利便性を感じました。私にとっても今回の会議により他大学の学生の話を聞くことで新しい発見や様々な考え方を知る機会となり、今後の励みになりました。

時間としてはとても短いものでしたが、このような機会を企画してくださった主催者の方々ならびに、先生方に感謝を申し上げます。



信州大学経済学部4年

安達 孝博さん

今回、地震ボランティア報告会に参加できて本当に良かったと思います。なぜなら、ボランティアの経験をさまざまな大学と共有できたためです。

ボランティアと一口に言っても中身は様々で、聞いてみなければわからぬような世界もあるのです。事実、今回の報告会の各発表は、それぞれ違うボランティア内容でした。自分が体験しなかったことを、知るのと知っていないとでは何が違ってくるのか。それは、次また災害が起こった時、「どんなアクションを起こせるのか」に影響してくるのではないかでしょうか。ボランティアをしてきた人も、したことがない人も、この報告会を通じて経験を共有し、自分の未体験ゾーンを穴埋めできた、そんな報告会でした。



清泉女学院大学人間学部1年

竹内 裕美さん

清泉女学院大学は、「人とのつながり」に重きを置き、被災地支援活動をしたことについて報告しました。

子どもたちとの交流を中心に行なった岩手県大槌町でのボランティアを経て、私たちが感じ、学び、考えさせられたことを中心に発表しました。



報告会後、本学では、他大学の学生の方々の話も参考に、被災地での活動に続く、新たな支援活動案を模索はじめました。本当に実現できるかどうかはわかりませんが、今回の報告会は、次への一歩を進める大きなきっかけとなつたと思います。

自分たちの学校内にとどまらず、長期的かつ幅広い考えをもって、被災地のこれからを考えること、人と人がつながるコミュニティーの大切さを改めて感じました。



「地震ボランティア報告会／第26回K³茶論」の様子▶
(信州大学松本キャンパス)

後期「遠隔授業」受講状況について

後期「遠隔授業」は15科目が開講され、県内8大学の学生936名（うち単位互換受講者42名）が受講しました。

遠隔授業では、高等教育コンソーシアム信州の遠隔講義システムを利用して、自大学にいながら県内の他大学の授業を履修することができます。遠隔授業を受講して修得した単位は、長野県内大学単位互換協定に基づき、所属大学の単位として認定されます。

■平成23年度後期 遠隔授業受講状況一覧表

(単位：人)

授業科目名	担当教員	受講登録者		聴講・市民	合計
		全体	うち単位互換受講者※		
月2 電子出版の現代	鈴木治郎（信州大学）	30	0	1	31
月5 ドイツ語初級（総合）Ⅱ	松岡幸司（信州大学）	23	6	1	24
火3 宗教と文学	古橋昌尚（清泉女子学院大学）	13	4	3	16
火4 キャリア形成論Ⅱ—自分の将来像を探るステップー	赤羽貞幸・霜鳥光（信州大学）	210	7	0	210
水1 医用生体工学	清水俊治（諏訪東京理科大学）	103	11	0	103
水2 機械システム工学通論	専攻全教員（諏訪東京理科大学）	65	1	0	65
木1 生態学B	高橋大輔（長野大学）	68	0	0	68
木3 地域社会とスポーツ	吉田勝光（松本大学）	111	1	0	111
木5 ドイツ語中級（読解）Ⅱ（現代ドイツ事情ゼミ）	松岡幸司（信州大学）	9	1	0	9
金1 環境文学のすすめ	松岡幸司（信州大学）	59	3	0	59
金2 新聞と私たちの社会（信濃毎日新聞寄附講義）	加藤鉱三・加藤善子（信州大学）	29	8	0	29
金3 口と歯の不思議	増田裕次・中村浩彰（松本歯科大学）	8	0	0	8
金4 キャリア形成論Ⅱ—自分の将来像を探るステップー	赤羽貞幸・霜鳥光（信州大学）	150	0	0	150
金5 日本人のための英作文練習ゼミ	加藤鉱三（信州大学）	31	0	1	32
一 検索の科学（e-Learning）	鈴木治郎（信州大学）	27	0	0	27
計		936	42	6	942

※「単位互換受講者」は「受講登録者全体」の内数。

賛助会員募集のお知らせ

県内高等教育と地域の発展を目指す高等教育コンソーシアム信州を、サポートしてくださる会員を募集しています。詳しくは高等教育コンソーシアム信州事務局までお問い合わせください。

■年会費 特別会員（長野県内地方公共団体）、賛助会員（団体・個人）とも、1口1万円、1口以上

■会員特典

- ①高等教育コンソーシアム信州公式Webサイトに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（リンクを貼ることも可能です）。
- ②高等教育コンソーシアム信州のパンフレットに、会員として社名（団体名・個人名）を掲載させていただきます（ただしパンフレットは年1回発行のため、年度途中で会員になった際は掲載できないことがあります）。
- ③高等教育コンソーシアム信州が主催するフォーラムや講演会の案内をお送りいたします。
- ④「S-NET NEWSLETTER」など高等教育コンソーシアム信州の刊行物をお送りいたします。
- ⑤会員団体の企画を高等教育コンソーシアム信州が後援いたします（書類提出等、手続きがあります）。



活動報告

高等教育コンソーシアム信州の最近の主な活動は、次の通りです。

- 平成23年11月16日（水） 「地震ボランティア報告会／第26回K³茶論」開催
- 平成24年1月17日（火） 第27回K³茶論「遠隔医療とはなにか、次世代の医療となりうるか?—信州大学病院での先進事例の紹介—」開催
- 1月18日（水） 「インターーンシップ成果発表会」開催
- 1月31日（火） 第28回K³茶論「日本学生支援機構平成23年度優秀学生顕彰事業、信州ブランドフォーラム2011 受賞学生発表会—長野大学学生による学習成果発表—」開催

編集後記 今年は辰年、昇り龍のように飛躍する予定のコンソーシアム信州です。どうぞよろしくお願いいたします。今朝の松本市（事務局所在地）の気温はマイナス9度。「冬来たりなば春遠からじ」のことわざを疑うような毎日ですが、でも少し日が長くなったかな?春の兆しを努めて見つけたいと思います。

